

(2015年6月10日)

平成27年度通常総会と研修会を行いました

理事 加藤三保子

4月25日(土)13時30分から、戸山サンライズ(東京都新宿区)の2階中会議室で、平成27年度総会を、総会終了後に研修会を行いました。

総会は、個人正会員・団体正会員の出席が39(うち書面評決者16)と定足数に達して成立し、平成26年度事業報告・決算、平成27年度の事業計画・予算をはじめ、定款の変更、役員改選など、全ての議案が原案どおり承認され、平成27年度の事業がスタートしました。

平成26年度の活動経過として、ホームページを通して企業からの点字表示の問合せが多いことと、街中の点字表示の誤りについて事務局が指摘したいくつかの実例が報告されました。

企業からの問い合わせについては、日盲社協点字出版部会に紹介し、対応を依頼しています。

街中の点字表示の誤りについては、件数は少ないものの、修正されたケースもあり、今年度もこの活動を続けていくことになりました。会員一人一人が気づいたときに、その内容を事務局に伝える、事務局はそれを確認し、日本点字普及協会として、誤表記の内容を説明し、修正を依頼するというものです。日本点字技能師協会にも協力いただけることとなり、できるところから動く、小回りのきく活動をしていくことになりました。

総会終了後の研修会、今年のテーマは「小・中学生への点字普及」です。

はじめに、調査報告として、「小・中学校教科書における視覚障害に関する教材」について加藤から報告し、引き続き、お二人の方から実践報告をいただきました。

私たちが小・中学校で点字の体験などを担当するとき、いろいろな質問を受けます。なかには、「凸字の実物はどこで見ることができますか?」「点字の教科書ってどれぐらいの厚さですか?」など思わぬ質問が出る場合があります。

そこで、小学校の授業では点字をどのように学んでいるのかを知るために、点字が小学校の教科書でどう扱われているのかを調べてみました。

点字が採り上げられているのは、主に4年生の国語で、調査した範囲では、次の4社の教科書でした。

学校図書『点字を通して考える』(黒崎恵津子):本文では、点字の歴史が詳しく紹介されています。ルイ・ブライユ、凸字、バルビエの十二点点字、小西信八、石川倉次、点字選定会議などの事柄が述べられています。そして、ユニバーサルデザイン、身近な点字表示についての紹介があり、さらにこれらの装置や機器類・道

具などのハード面だけでは足りないもの、「本当のやさしさ」とは何かについて述べられています。点字一覧表（点字の組み立て、仮名で「う」をのぼす時の書き方、清音・濁音・半濁音・拗音・拗濁音・拗半濁音・数字、「テンジヲ■マナボー」）、ルイ・ブライユ、アルファベットの凸字（ムーンタイプ）、バルビエの十二点点字、ブライユの六点点字、石川倉次の点字案（第1回点字選定会議に出された石川倉次案）、ユニバーサルデザインの例（シャンプー、ノンステップバス、多機能トイレ、エレベーター・エスカレーター・階段が並んで設置されている例）、石川倉次、身近な点字（缶ビール、エレベーター、振動形信号機の点字表記）と、多くの写真やイラストが掲載されています。

光村図書 『手と心で読む』（大島健甫）：作者自身の経験を通して、点字のしくみ、点字の役割、点字を触読する苦勞と喜び、視覚障害者にとっての文字としての点字について述べられています。本文のあとの「もっと調べる」では、それぞれの課題を深めることを目標に身近な点字表示について調べた例が挙げられています。エレベーターの点字表示、自動券売機、点字の本、点字を読んでいるところ、点字一覧表（清音・濁音、数字、「カラマツノ■ハヤシヲ■スギテ」）、標準点字器、点字を打っている所、音声拡大読書器、立体コピー機のイラスト・写真が掲載されています。

教育出版 『「便利」ということ』（太田正己）：本文には、耳の不自由な女性のチャイムに気づくための工夫や、緩やかな勾配の歩道橋などが採りあげられていて、本文のあとの「ポスターセッションで発表しよう」で、点字ブロック、点字のついた手すり、点字のついた券売機、触知図の案内板、音声触知図式案内板などが紹介されています。「点字の表」があり、五十音、濁音、半濁音、数字と、点字のしくみが説明されています。そして、「実際の点字はここでしめしたものよりも点のもりあがりが高くなります」と断りがあります。

三省堂『点字について知ろう』：点字の紹介と「点字はどんなところに使われているでしょうか」との文があり、点字一覧表（五十音、濁音、半濁音、数字、「トモダチ」）、点字を読んでいる人、エレベーターの注意書き。文字が浮き出たトケイ、曜日が分かる薬入れ、公園の案内板、歩行者用押しボタンの写真が掲載されています。

採り上げ方は様々ですが、4種の教科書すべてに浮き出した点字一覧表があり、触って読めるようになっています。ただ、高さや大きさがまちまちで、参加者からは、点字のJIS規格にあっているのか検証が必要との声が上がりました。

この他、国語では、3年生で、盲導犬の訓練（東京書籍）が詳しく採りあげられていたり、中学1年に『ユニバーサルな心を目指して』（三省堂）という三宮麻由子氏の文章がありました。

点字以外の視覚障害に関する記述としては、小学1・2年の「せいかつ」に、通

学路や町の安全を探検する中で、点字ブロックや信号機の青延長用ボタンの写真が多く掲載されていたり、町の様子が描かれた中に、白杖の男性や、盲導犬とともに歩いている人もいます。3年の「社会」では、いろいろな仕事の理解のなかで、スーパーマーケットの中にも、子どもと一緒に買いものをする白杖の女性や店員の案内で買いものをする男性が描かれています。

今回の調査の中で、小学1・2年の「たのしいせいかつ下」（大日本図書）には、点字のあやまり（ウ列・オ列の長音、助詞の「は」）があることが分かり、この研修会前に、出版社に修正を申し入れたところ、今年9月出版の教科書から修正するとの回答がありました。これも当協会の活動成果の一つとして総会で報告されました。

今年度の教科書改訂に伴い、4年の国語の内容も変化するそうですので、今後も点字を中心に調査を続けていきたいと思っています。

その後、学校での点字体験指導の実践報告をしていただきました。

視覚障害者当事者の立場から久部幸次郎さんが、点訳ボランティアの立場から関尾温さんが発表してくださり、それぞれの立場で、小学生に点字の仕組みや触って読むと言うことについて興味を持ちながら学んでもらうための工夫が紹介されました。生徒の名字を例に取りながら、「馬場」さんは、1点間違うと「バッハ」さんになってしまうなど和やかに授業を進める様子が紹介されました。

フロアからも活発な意見交換があり、全国で、小中学生への点字普及に取り組まれていることを心強く感じました。

【お知らせ】

1. 27年度役員について

役員の任期満了に伴い、4月25日（土）の総会で役員の選任を行いました。

理事：岡村原正、加藤三保子、高橋恵子、藤野克己、渡邊 亮（いずれも再任）

監事：金子 昭（再任）、中山 敬（新任）

なお、総会後に理事会を開いて理事長、副理事長の互選を行いました。

理事長：藤野克己

副理事長：高橋恵子

役員の任期は、2年です。

2. 今年の11月1日（日）のイベントについて

日本点字制定記念日である11月1日、今年も「サイトワールド2015」の会場をお借りして、イベントを計画しています。今のところ、以下のような内容を予定し

ています。

(1)点字に関する講演会（10時30分～12時30分）

講師：阿佐博さん、青松紀野さん

阿佐先生については、皆様ご存知と思います。

青松紀野さんは、現在横須賀市点字図書館に勤務していらっしゃる人です。

演題は、これから相談して決めます。

(2)展示・体験コーナー（13時～16時）

Lサイズ点字の体験、インターネットを使った点字学習の体験、凸面点字器試作品の紹介と体験などを予定しています。

当日のお手伝いをしてくださる人を募集します。サイトワールドの見学を兼ねて、ぜひご協力ください。

（詳しくは、近くなってからご連絡いたします。）